

## 第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

### 重点目標④ 特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善する適切な指導や必要な支援を行い、自立し社会参加するための基礎となる力を育成します。



# 1 校・園内特別支援教育推進体制の充実

## ◆ ねらい

特別な支援の必要な幼児児童生徒に対する効果的な支援を行うための方策や組織を確立します。

取組指標	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成27年度)
校・園内特別支援教育委員会 (含ケース会議)の開催数	平均 12.9回/年	年8回以上

## ◆ 現状と課題

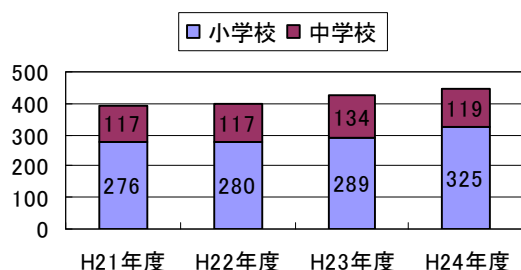
### (1) 校・園内体制の充実

特別な支援を必要とする幼児児童生徒数が増加の傾向にあります。一人一人の教育的ニーズに対応するために、校・園内の特別支援教育コーディネーター（校・園内 Co）を中心に校・園内委員会を位置づけ、各校・園における支援体制を確立しています。そして、特別な支援を必要とする幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援や関係機関との連携を行うために、校・園内 Co を中心とした支援体制の充実が図られています。

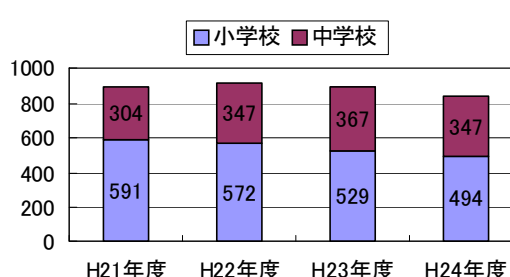
また、校・園内 Co 担当者研修会を年3回実施し、校・園内委員会の運営方法や、相談支援ファイルの活用方法、個別の指導計画の作成方法の研修を通して、校・園内 Co の資質向上を図りました。

平成24年度の校・園内委員会（含ケース会議）の開催数は、全体として平均12.9回で、定期的、計画的に開催し、具体的な支援内容について話し合われています。

特別支援学級在籍児童生徒数



通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒数（各学校の申告・含診断なし）



### (2) 学校・園の支援力の向上

校・園内 Co の配置や個別の教育支援計画の作成は全ての校・園においてなされるようになりました。しかし、校・園内 Co の効果的な動きや、個別の教育支援計画をもとにした支援の具現化においては、まだ十分とは言えません。そこで、教育支援課指導主事や地域特別支援教育コーディネーター（地域 Co）、巡回支援員等の専門

**重点④ 特別支援教育の充実**

家を活用することで、校・園内 Co を中心とした校・園内委員会の活性化を図り、具体的な支援の実践につなげるよう努めてきました。

指導主事による訪問や、地域 Co（本年度は、小学校5名、中学校3名、計8名を配置）、教育支援課スーパーバイザー、教育支援課臨床心理士や巡回支援員（本年度は、言語聴覚士、点字技能師を含む14名を委嘱）による巡回相談をのべ937回実施しました。特に、小学校においては希望校、中学校においては全校にスーパーバイザーを複数回派遣し、児童生徒の実態把握と支援のあり方を検討しました。具体的な支援方法の充実のみならず、教師自身が児童生徒や学校の課題を整理することにより、組織的な取り組みを通じて、学校全体の支援力の向上を図ることができました。

保育園、幼稚園を対象とした巡回相談では、発達総合支援室と連携し、必要に応じて就学相談やU-8の教室につなげる等、早期からの途切れのない支援を行っています。

巡回教育相談員数とその内訳

	H21	H22	H23	H24
地域特別支援教育 Co	5	6	8	8
巡回支援員	9	10	11	14
教育支援課スーパーバイザー	1	1	1	1
教育支援課臨床心理士	0	0	1	1
教育支援課指導主事	5	5	5	5
計	20	22	26	29

用語の解説

【地域特別支援教育コーディネーター】特別支援教育の実践における資質や能力及び発達障害に関する専門的知識を有する小・中学校の教員を、四日市市教育委員会が委嘱する。幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育について助言・連絡調整を行う。

【巡回支援員】特別支援教育並びに発達障害に関する専門的知識・経験を有する者を、四日市市教育委員会が委嘱する。保育園・幼稚園・小学校・中学校を訪問し、保護者・担任・特別支援教育コーディネーター等との相談等を行う。

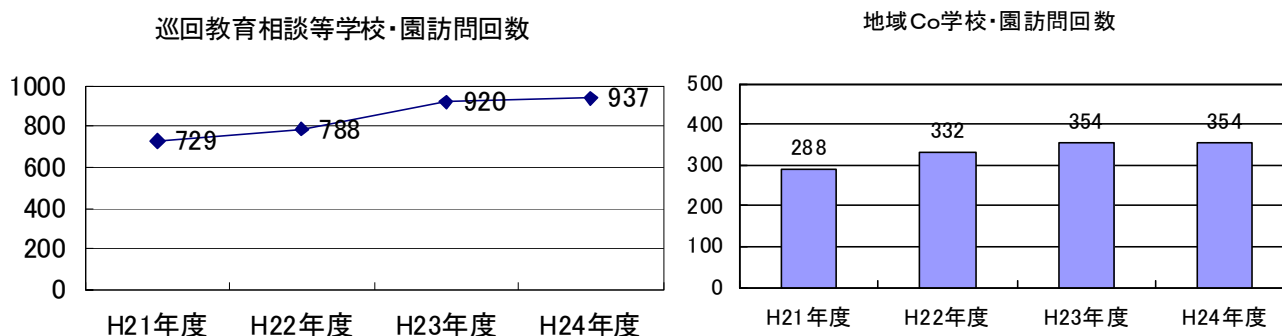
【教育支援課スーパーバイザー】教育支援課スーパーバイザーとして特別支援教育並びに発達障害に関する専門的知識・経験を有する者を、四日市市教育委員会が委嘱する。市内全中学校に対して、1年生を中心とした抽出児に対して、年間各2回の継続的な巡回スーパービジョンを行う。

【教育支援課臨床心理士】教育支援課臨床心理士として発達障害に関する専門的知識・経験を有する者を、四日市市教育委員会が委嘱する。小学校からの要請により、通常学級に在籍する3年生以上の児童について、年間各2回の継続的な巡回教育相談を行う。

【発達総合支援室】子どもの発達について、保健・福祉・教育が連携しながら、早期からの途切れのない支援を目指すことを目的として、平成24年4月に福祉部児童福祉課に設置された。

（四日市市役所の組織機構の見直しにより、平成25年4月から、こども未来部こども保健福祉課の所管となる）

**重点④ 特別支援教育の充実**

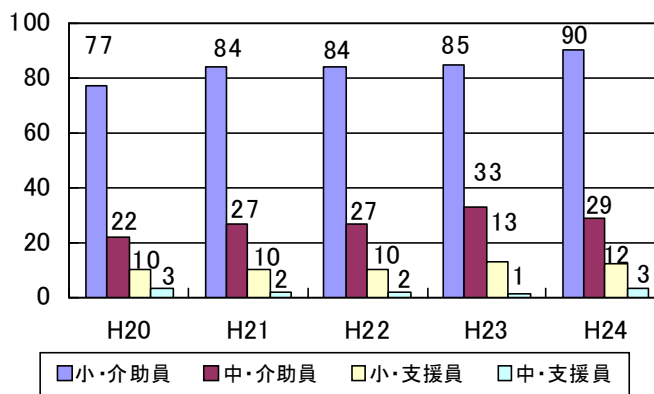


**教育支援課臨床心理士及び教育支援課スーパーバイザー  
学校訪問回数と対象児童生徒数**

	のべ訪問回数	のべ対象児童生徒数
教育支援課臨床心理士(小学校)	26	36
教育支援課スーパーバイザー(中学校)	44	136
合計	70	172

また、特別な教育的支援が必要な児童生徒に対して、適切な支援を行うために介助員・支援員を配置しました。

**特別支援学級介助員及び特別支援教育支援員の配置**



**用語の解説**

【介助員】小学校、中学校の特別支援学級において、児童生徒が学校生活をする上で必要な介助を行う職員。

【支援員（特別支援教育支援員）】小学校、中学校の通常学級に在籍し、発達障害等により、生活や学習上の困難を有する児童生徒に対し、必要な支援を行う職員。

(3) 中学校区での連携強化の推進

小1プロブレムや中1ギャップを未然に防ぐため、就学や進学時に支援が途切れないよう、ブロック別の情報交換や実践交流を行っています。また、相談支援ファイルの活用を中心として、幼保小中の連携強化に努めています。具体的には、保護者が主体となって、就学や進学の際の相談支援ファイルの引き継ぎを行うことができるよう、送り出す側、受け入れる側の校・園が互いに連携し、保護者への働きかけを行いました。

◆ 今後の方向性

- (1) 校・園内体制の充実のため、校・園内 Co 担当者研修会を通して、校・園内委員会の計画的な実施や運営方法について、市内の先進的な取り組みを共有し、校・園内 Co の資質の向上を目指します。
- (2) 学校・園の支援力の向上のため、専門性の高い巡回教育相談等が実施できる体制を維持します。市内の特別支援学校や、新たに発足することも未来部等の関係機関との連携も進めていきます。
- (3) 中学校区での連携強化の推進のため、担当者間での情報交換を行います。相談支援ファイルがスムーズに引き継がれるよう、学校・園が互いに連携するとともに、保護者への啓発に取り組みます。さらには、中学校と高等学校の連携のあり方も検討していきます。

用語の解説

【小1プロブレム】入学したばかりの児童が、「集団行動がとれない」、「授業中に座ってられない」、「話を聞かない」などの状態が数ヶ月間継続するという現象。

【中1ギャップ】中学校に進んだ生徒が、小学校との環境の違いになじめず、いじめや不登校が急増するという現象。

## 2 早期からの一貫した教育支援システムの確立

### ◆ ねらい

特別支援教育推進協議会を中心とした関係部局の連携・協働による乳幼児期から学校卒業後を見通した相談支援体制を強化します。

取組指標	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成27年度)
保護者、学校・園や関係機関等との間で相談支援ファイルを活用した回数(一人あたり)	平均2.3回/年	年5回以上

### ◆ 現状と課題

#### (1) 相談支援ファイルの活用について

特別支援教育推進協議会を2回、作業部会を2回実施し、「相談支援ファイル」の具体的な活用のための課題を整理しました。平成24年度は「相談支援ファイルを活用していただくために」を改訂し、進級・進学時の引継ぎについて保護者や関係者の役割を具体的に示しました。



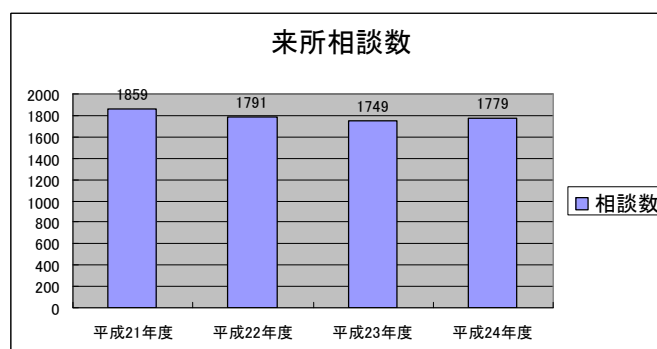
また、相談支援ファイルが中学校卒業後の教育相談や福祉サービスの場でも活用されるように、各校担当者が集まり研修を深めました。福祉サービスを受ける際にはどのような情報が必要なのか事業所の職員に話をしてもらったり、他の機関が作成した様々なシートを例にあげ、記入方法について紹介したりしました。

現在、学校・園では、1082冊の相談支援ファイルが作成され、さらに新規の作成も進んでいます。入学・進級・進学時における引継ぎを確実に行うとともに、家庭訪問や保護者懇談会時における活用、医療機関を受診する際の活用など、具体的な活用場面や方法等を示しながら、さらに活用を促していきます。

#### (2) 相談事業

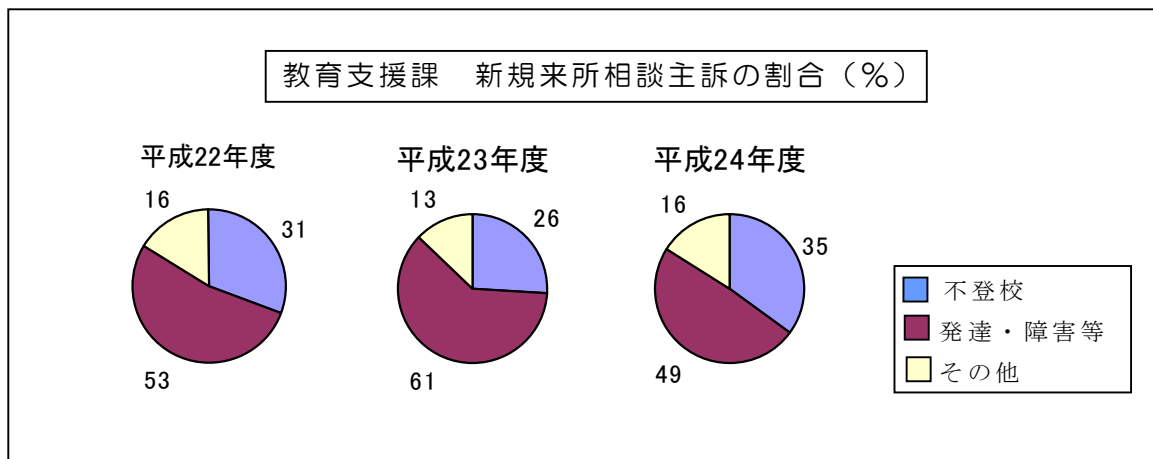
来所相談数は、年間の新規相談数により増減はありますが、平成24年度は、年間のべ1779人でした。

新規来所相談の内訳は、不登校相談は全相談の35%ですが、継続相談を含んだのべ件数では、全相談の54%を占めます。これは、不登校相談での長期継続相談が多いことを示しています。



不登校相談の長期化に対応していくために、プレイセラピーやカウンセリングだけでなく、適応指導教室「わくわく教室」として、小集団でのソーシャルスキルトレーニングを小学生低・中学年、高学年のグループに分けて行いました。

**重点④ 特別支援教育の充実**



新規来所相談の「発達・障害等」に関わる割合は49%でした。平成24年度児童福祉課に発達総合支援室が新たに設置されたことにより、発達面の相談を支援室と連携してより専門的に行うことができました。

一方、東日本大震災で被災し、本市に避難してきた幼児児童生徒の実態把握を継続して行い、必要に応じて保護者や子どもの相談支援を行いました。

(3) U-8事業（四日市市発達障害等早期支援事業）

発達等に課題のある幼児・小学校低学年児童（8歳以下）を対象に、幼児期からの早期対応・早期支援を行ってきました。

学校・園でU-8の教室の存在が周知され、個々の課題に応じた教室につながるケースが増えました。

教育委員会と福祉部、健康部が連携するだけでなく、スタッフとして参加している先生達を対象に研修会を行い、子どもの課題に対して、具体的にどのように支援を行うとよいか考えてきました。また、現場での支援力を高めるための研修会も行いました。



教室に参加した子どもの在籍校・園を訪問し、具体的な支援の方法について共通理解が図れるようにしました。

教室参加後の保護者のアンケートでは、教室の満足度、家庭での活用度ともに98%となっています。「保護者同士が子どもへのかかわり方を一緒に学び合う場があることは、子どもへの接し方を学ぶだけでなく、自分自身の励みになった」との感想が寄せられました。

教室修了後の支援としては、フォローアップ教室を開いたり、個別の相談に応じたりしています。今後は、教室での学習内容を園・小学校で活用されるよう更なる働きかけが必要です。

U-8 事業 実施状況

		H22	H23	H24
登録件数		111	141	170
教室別	ことば	39	34	60
	まなび	27	19	22
	ともだちづくり	45	44	44
	子どもの見方・ほめ方	45	44	44
実施回数		557	576	859
実施人数		804	964	1,275

(4) <sup>イエスネット</sup>YESnet（四日市早期支援ネットワーク）

YESnetは、子どもの心の病気の早期支援やよりよい回復を目的として、医療機関・四日市市保健所・教育委員会が連携して取り組もうと、平成21年度に設立されたネットワークです。

心の病気が心配される子どもの相談機関として、YESnet 事例検討会があります。保護者の同意のもと、学校の先生が事例検討会に出席し、YESnet 担当者と一緒に話し合いを行っています。学校や家庭でどのように対応すればよいか、医療機関や保健所の視点から助言を受け、今後の支援の方向性を見つけていきます。今年度は、4件について話し合いを行い、保護者に話し合われた内容を報告し、保護者、学校、YESnet が共通理解のもと、子どもの支援にあたりました。また保護者からの希望があれば、関係機関での個別の相談にも応じています。

YESnet では、これまで相談のあった子どもたちを見守り、相談支援を継続的に続けています。今年度ののべ相談件数は70件でした。子どもの心の病気についての相談支援体制をさらに充実したものにしていくために、学校関係者や保護者への更なる周知を図っていくことが大切です。

一方、子どもの心の病気の予防のために、要請のあった中学校4校に出向き、YESnet 出前授業「心の健康 ストレスをぶっ飛ばせ！」というテーマで授業を行いました。さらに、要請のあった中学校4校で、学校の先生を対象とした研修会を開いたり、相談に応じたりしました。

今後も学校に出向き、子どもや保護者、教職員に対して、「心の健康」についての啓発を行っていく必要があります。



事例検討会の様子



出前授業の様子



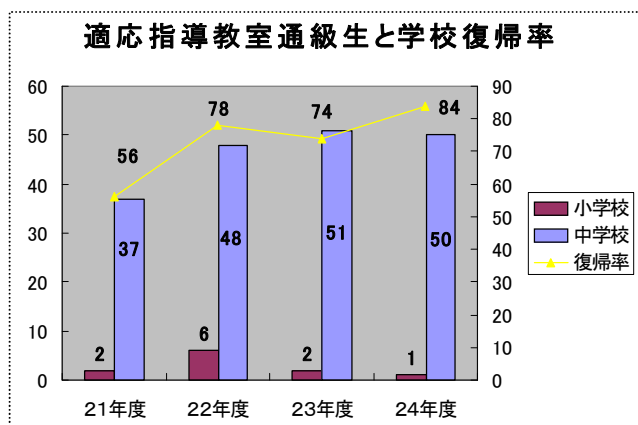
**重点④ 特別支援教育の充実**

(5) 不登校児童生徒への支援 適応指導教室（わくわく教室・ふれあい教室）

「わくわく教室」では、小学生の子どもを対象とした、ソーシャルスキルトレーニングを行っています。今年度は、通級児童1名と体験児童9名の計10名の児童が参加しました。小集団遊びを中心に、ルールを守ることや気持ちを伝えることなどを学ぶ学習場面を設定しています。継続的に参加することで、参加児童の間に仲間意識が芽生え、周りの人を意識して行動できるようになるなどの成果がありました。

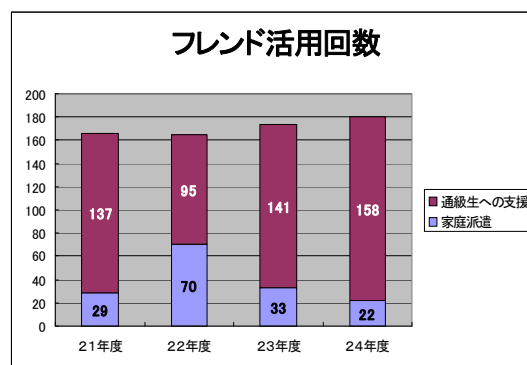
また、「ふれあい教室」では、不登校の児童生徒や保護者に対する相談活動として、プレイセラピーや教育相談を行い、不安の軽減や学校復帰に向けての自己目標の設定などを行っています。平成24年度ののべ相談件数は1,333件でした。個々の相談と並行して、集団の中で、学習や運動、体験活動などに取り組んでいます。この活動を通して、学校場面で生かすことのできる適応力等を身につけています。

両教室共に、学校復帰や社会的な自立を促すことを目的としていますが、近年の傾向として、適応指導教室の集団活動に参加できない児童生徒が増え、一人一人の状況に応じた個別指導で対応するケースが多くなっています。そのため、セラピストやスーパーバイザーの助言を得て、一人一人のニーズに合わせた支援を考え、学習活動や様々な体験活動・ソーシャルスキルトレーニングなどを行っています。



ふれあい教室における取組では、不登校児童生徒支援ボランティア（ふれあいフレンド）が、通級児童生徒とともに活動し、登校や自立に向けての支援をしています。また、引きこもり傾向の子どもに対しては、自立への支援の一助として、ふれあいフレンドを家庭に派遣しています。

通級生は、年齢が近いふれあいフレンドに親近感を持って接することができ、さまざまな社会体験の情報などを得ることができました。また、異年齢の人とのコミュニケーションの取り方などを、実践しながら学ぶ場になっています。



◆ 今後の方向性

- 相談支援ファイルの活用によって、乳幼児期・学齢期・卒業時の引継ぎがスムーズになるように、特別支援教育推進協議会を中心に関係部局と連携しながら中身の充実について考え、一人ひとりに合ったものになるよう努めていきます。また、保護者への相談支援ファイル活用の啓発を行います。
- 不登校をはじめとして、多様化・複雑化している相談内容に適切に対応していくために、学校・園、スクールカウンセラー、関係機関等と、より一層の連携を図ります。不登校の相談では、子どもの様態に応じて個別や適応指導教室（わくわく教室、ふれあい教室）の活用を柔軟に進めていきます。発達・障害等の相談については、発達総合支援室と連携し、U-8事業などにおいて具体的な支援を行います。子どもの心の病気については、YESnetを中心に、保健所や関係機関と協議しながら、よりよい支援を考えていきます。
- 学校・園で、U-8事業が周知されてきています。早期からよりよい支援を行っていくために、学校・園や関係機関とより一層連携し、子ども理解や具体的な支援方法について検証していきます。また、教室で行われたことが、子どもたちの生活の場である学校・園でさらに活用できるように、教職員の研修の場を広げていきます。教室修了後も、教育相談や学校訪問、巡回相談を行い、子どもや保護者のフォローを行っていきます。
- 適応指導教室では、学校や関係機関と連携し、通級生の児童生徒理解を深め支援に生かすとともに、不登校傾向及び不登校の状況にある児童生徒についても、情報共有を行っていきます。学校復帰や社会的な自立を促すために、集団活動への移行を段階的に行い、社会的スキルを身につけられるよう支援します。また、学校と連携して進路指導のサポート等も行います。

用語の解説

【ソーシャルスキルトレーニング】ソーシャルスキルとは「良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技術やコツ」のこと。ソーシャルスキルトレーニング（SST：social skills training）とは「あいさつ」「仲間の誘い方」「上手な断り方」などの具体的な場面を想定し、トレーニングによって対人関係スキルを身につけ、実際の場面で用いることができるようにすることをねらいとしたトレーニングのこと。